

最優秀賞 (個人)

篠原 ヤエ子

個人として、また団体の代表として、地域のごみ減量・リサイクルに貢献

地域のごみ減量・リサイクルの推進に貢献したいとの思いから、自宅敷地内にリサイクルボックスを設置。25年以上にわたり、毎日リサイクルボックスの管理運営を行い、地域住民から、いつでも資源物が持ち込めると感謝されている。ほぼ毎日、リサイクルボックス内の整理を行っており、地域住民への指導や、町内会の総会・集会所での会合などでごみ減量・リサイクルについて声かけを行うなど、地域住民の環境意識の向上に大きく貢献している。

また、川の清掃活動をきっかけに、きれいな川を守りたいと廃油石けん作りを開始。地域住民宅や幼稚園などから廃油を回収し、自宅内の専用の廃油石けん場で作った石けんを地域のバザーなどで販売。収益は被災地や福祉活動等に寄付している。

個人としてだけでなく、早良リサイクル21の代表としても、団体のメンバーと共にごみ減量・リサイクルに取り組んでおり、地域住民からの信頼は非常に厚い。



地域のバザーで廃油石けんを販売

最優秀賞 (団体)

室見川水系油山川河川を守る会

油山川の清掃活動ときれいになった川での環境教育活動

飯原校区の中心を流れる油山川を子どもたちの環境学習の場として活用できないか、また地域の活性化に繋がられないかと考え、地域住民の「どげんかせんといかん」という思いから会を発足。

会員を中心に、地域住民・自治協議会・学校・企業などが共働して清掃活動を行っており、年間延べ600人以上が清掃に参加している。清掃活動を通じて環境意識が高まるとともに、地域住民・学校・企業の交流の場となっている。

清掃を続けたことで川の水質が改善し、平成24年からは、飯原小学校で川での自然観察会などを行っている。また、飯原小学校の児童と保護者を対象とした公民館主催の親子塾では、同団体が小学校や福岡大学工学部の水圧システム研究室と共に企画・運営を行っている。参加した子どもたちからは、「きれいな川を守りたい」という感想が寄せられており、これから地域を担う存在である子どもたちの環境マインドを育んでいる。



清掃する原中学校野球部のみなさん

最優秀賞 (学校)

社会福祉法人恵和会 めぐみ保育園

環境教育をとおして地域に広げる、もったいない精神

古紙を園児が使う折り紙やおもちゃの作成に再利用したり、公民館と協力してペットボトルキャップやプルタブの回収を行ったりするなど、日頃からごみ減量・リサイクルに取り組み、園児のもったいない意識を育んでいる。年に2回、各家庭に呼び掛けて古着の回収も行っている。

エコをテーマにした園オリジナルの「もったいない体操」は、地域の運動会で地域住民にも広まっている。

また、あいがも農法による無農薬での稲作や、調理くずなどで作った堆肥を利用した野菜作りに取り組んでおり、園児が自然に触れる体験を取り入れ、環境教育を行っている。

田んぼでの活動には、地域住民の参加も多く、園児と地域住民の交流の機会にもなっている。

夏季には、冷房の使用を少なくし、設定温度にも気を付けながら、自然の風の中で涼しく過ごせるよう緑のカーテンを育てている。



みんなでもったいない体操

最優秀賞 (事業者)

株式会社 環衛サービス

省エネ・ごみ減量や地域での清掃・植林活動を積極的に実施

事業者が環境への取り組みを効果的、効率的に行うこととして、環境省が策定したガイドラインである「エコアクション21」に基づき、地球温暖化防止、ごみ減量・リサイクル、環境美化等に積極的に取り組んでいる。

昼休み時の消灯やごみの排出削減、古紙の再資源化、再生品の使用などに会社全体で取り組んでおり、社員の環境保全意識が高い。

また、地域の豊かな自然を次世代に繋げたいとの思いから、奈多植林会、和白干潟を守る会の会員となり、活動している。毎月、全社員が交代で海岸の清掃や植林に参加することにより、自然環境保護に貢献するとともに、社員が地域住民や市民団体と交流する機会となっている。

年に2回実施している、和白水処理センター周辺の公園や海岸道路の清掃活動は20年以上継続しており、毎回軽トラック一杯ものごみを回収している。



和白干潟でのアオサの清掃

奈多海岸での松の植林活動